



ゲブラ株式会社に対する  
「〈ひろぎん〉サステナビリティ・リンク・ローン」の実行について

株式会社広島銀行(頭取 清宗 一男)では、ゲブラ株式会社(本社:広島県廿日市市、代表取締役 大前 万象)に対して「〈ひろぎん〉サステナビリティ・リンク・ローン」を実行しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 案件概要 (「〈ひろぎん〉サステナビリティ・リンク・ローン」の概要は別紙1をご参照ください)

契約締結日	2024年2月29日
融資金額	1億5千万円
融資期間	6年
SPT (サステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット)	リユースカップの利用率増加
その他	サステナビリティ・リンク・ローンとしての適合性および SPT の合理性について、ひろぎんエリアデザイン株式会社からセカンドオピニオン(別紙2)を取得しております。

2. 企業概要

会社名	ゲブラ株式会社
所在地	広島県廿日市市宮島町528番地3
代表取締役	大前 万象
業種	飲食業
事業内容等	「広島産レモンを宮島で楽しむ」をモットーとした宮島島内のドリンクバーの運営

以上



広島銀行では、SDGsへの取組みを強化しており、関連するニュースリリースに「SDGs17の目標アイコン」を明示しています。

【SDGs (Sustainable Development Goals) 持続可能な開発目標】  
2015年9月に国連で採択された、経済・社会・環境のあり方についての2030年までの世界共通目標。  
持続可能な開発のための17の目標と169のターゲットで構成。

本件に関するお問い合わせ先  
株式会社 広島銀行  
営業企画部 法人企画室  
TEL (082)247-5151 (代表)

## 「〈ひろぎん〉サステナブルローン」について

## ○特長

- ・環境省等が定めるガイドラインに整合したファイナンスフレームワーク「〈ひろぎん〉サステナブルローン」※を策定し、そのもとで「サステナビリティ・リンク・ローン」と「グリーンローン」の 2 商品をご用意し、ニーズに応じてご利用いただけます。

サステナビリティ・リンク・ローン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ESG・SDGs に関する目標を設定いただき、達成した場合に金利引下げを実施</li> <li>・ 設定いただく目標等にかかる外部レビューと年 1 回のレポートイングが必要</li> </ul>
グリーンローン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際原則や政府指針に掲げるグリーンプロジェクトにかかる設備資金のみが対象</li> <li>・ 年 1 回のレポートイングが必要</li> </ul>

※ファイナンスフレームワークのグリーンローン原則等に対する整合性について株式会社格付投資情報センターより第三者意見を取得しています。

- ・対外 PR 支援として、融資実行時に当行よりニュースリリースを行い、サステナビリティへの取り組みの対外公表をご支援します。

## ○商品概要

商品名	〈ひろぎん〉サステナブルローン	
	サステナビリティ・リンク・ローン	グリーンローン
取扱店	全店	
対象となる方	以下のすべてを満たす法人のお客さま	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ESG や SDGs に関する目標設定を行うこと</li> <li>・ 外部レビュー※、年 1 回のレポートイング（銀行への進捗状況報告）を実施</li> </ul> <small>※原則ひろぎんエリアデザインにより実施</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グリーンプロジェクトへの設備投資を行うこと</li> <li>・ 年 1 回のレポートイングを実施</li> </ul>
お使いみち	運転資金・設備資金	グリーンプロジェクトにかかる設備資金
ご融資金額	30 百万円以上	
ご融資期間	2 年以上（固定金利は 10 年以内）	1 年以上（固定金利は 10 年以内）
ご融資利率	当行所定の金利	
	目標達成の場合、金利引下げ※実施 ※金利引下げのみ、もしくは金利引下げ幅の一部を寄付するタイプのいずれかをご選択いただけます	—
ご融資形式	証書貸付・当座貸越	証書貸付
ご返済方法	当行所定の審査によります	
担保・保証人		
取扱手数料	組成難易度に応じてスキーム構築手数料が必要となります	

## ゲブラ株式会社 〈ひろぎん〉サステナビリティ・リンク・ローン

発行日：2024年2月29日

発行者：ひろぎんエリアデザイン株式会社

本文書は、株式会社広島銀行（以下、「貸付人」という）とゲブラ株式会社（以下、「借入人」という）の間のサステナビリティ・リンク・ローン（以下、「本ローン」という）について、ローン・マーケット・アソシエーション（LMA）等の「サステナビリティ・リンク・ローン原則」及び環境省の「グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン」に適合していることを確認したものであり、以下にその評価結果を報告する。

## 1. 借入人とサステナビリティ

### （1）会社概要

借入人は、廿日市市宮島町で2008年より牡蠣料理屋を営む牡蠣屋株式会社のドリンク提供部門の会社として2020年に設立された。宮島の表参道商店街にドリンク販売店である「GEBURA」、「GEBURA SISTER」の2店舗を構え、WEBショップも開設している。また系列店舗として牡蠣料理を提供する「牡蠣屋」、「牡蠣祝」の2店舗がある。

借入人は、契約農家から仕入れた広島県産瀬戸田レモンを使用したオリジナルの広島レモンシロップを手作りで製造しており、そのシロップを使ったアルコールやソフトドリンクを観光客向けにテイクアウトで販売する。さらにWEBショップではその広島レモンシロップを販売している。

店舗では飲み終えたドリンクカップを店舗や系列店舗へ持参することで、全てのドリンクが200円で購入できるといった、リサイクルに対する取組を実施している。

ロゴマーク



(会社HPより抜粋)

商品



## (2) サステナビリティ

借入人は、宮島で多店舗運営をする事業者として、宮島が世界的な観光地として在り続けるために中心的な役割を果たすことを経営方針に掲げており、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の理念に賛同し、SDGsの達成に向けて積極的に活動している。

### ゲブラのサステナブルな取組



## ゲブラ株式会社 SDGs宣言

←◇◇◇→

当社は国連が提唱する「持続可能な開発目標(SDGs)」に賛同し、積極的な取組を通じて持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

2024年2月29日  
ゲブラ株式会社  
代表取締役 大前 万象

←◇◇◇ 当社のSDGsへの貢献 ◇◇◇→

#### 広島産レモンを宮島で愉しむ

広島産レモンの活用による地産地消の取組みと環境に配慮したドリンクの提供を通じて、宮島のさらなる魅力を発信してまいります。

【主な取組み】

- ・広島産レモンを100%使用したドリンクの提供
- ・ドリンクおかわり時のカップ再利用の推進を通じたプラスチック使用量削減への貢献
- ・製造からパッケージまで全て「Made in MIYAJIMA」にこだわった商品の販売



#### 働きやすく

両立支援に向けた取組みの推進とダイバーシティ経営の実践を通じて、従業員が働きやすい職場環境を目指してまいります。

【主な取組み】

- ・両立支援策として産休・育休の100%取得や子供のイベント時の休暇取得の推進
- ・オーダーからドリンクの提供まで、だれでも対応できる体制の構築に向けた人材教育の実践
- ・若者男女・国籍を問わない人材の採用



#### 公正な事業慣行

コンプライアンスの徹底、個人情報の適切な管理・保護を通じて、お客様に安心してご利用いただける店舗運営を行ってまいります。

【主な取組み】

- ・法令遵守・コンプライアンス徹底への取組み
- ・プライバシーポリシーの策定・公開
- ・就業規則へのハラスメント禁止の明示



#### 宮島のために

地元宮島の持続可能な発展に向けて、地元人材の採用や地域貢献活動などに積極的に取組み、これからも地域とともに歩んでまいります。

【主な取組み】

- ・地元人材の積極採用
- ・定期的な宮島の清掃活動
- ・宮島ネットワークへの参画を通じた宮島の魅力発信



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



**SDGsとは**

Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)の略。持続可能な社会をつくるために、世界が抱える問題を17の目標と169のターゲットに整理したもの(2015年9月に国連で採択)。2030年までに、政府、企業、地域社会のあらゆる人が、SDGsを実現するための役割を担っている。

## 2. KPIの選定

### (1) KPIの概要

借入人はKPIとして、店舗へ返却するとカップの代金を返却するデポジット制の「リユースカップの利用率増加」を選定した。店舗でのリユースカップを使用したドリンク販売を開始し、その割合を増加させることで、カップの廃棄量削減に繋げることが可能になる。

### (2) KPIの重要性

ドリンクの販売をする上でプラスチックカップは欠かせないものである。借入人は現在そのカップのリユースを推進しているものの、素材はワンウェイプラスチックを利用しており、利用済みカップは廃棄されている。

我が国は、循環型社会形成推進基本法に規定する基本原則を踏まえ、これまでプラスチックの3R（リデュース、リユース、リサイクル）や適正処理を率先して進めてきた。この結果、容器包装等のリデュースを通じたプラスチック排出量の削減、廃プラスチックのリサイクル率27.8%と熱回収率58.0%を合わせた85.8%の有効利用と、陸上から海洋へ流出するプラスチックの抑制が図られてきた。一方で、我が国のワンウェイの容器包装廃棄量（一人当たり）は世界で二番目に多いと指摘されており※1、本KPIは借入人のサステナビリティ経営に重要な意味を持つ。

（※1） 消費者庁ほか8省庁 令和元年5月31日プラスチック資源循環戦略より抜粋

### (3) 経営方針とKPIの関係

宮島では以前より、観光客によるゴミの廃棄や、島に漂流するプラスチックごみの多さが課題となっており、借入人はその課題解決のために、島内の清掃活動に積極的に取り組むなどしている。設定したKPIは、そのような活動の一環であり、廃プラスチックの削減に寄与するものであるため、経営方針にも合致している。

### (4) KPIの有意義性

日本国政府は、2019年5月に「プラスチック資源循環戦略」を策定しており、3R+Renewableの基本方針と、6つの野心的なマイルストーンを目指すべき方向性として掲げている。そのうち、リデュースに関しては2030年までにワンウェイプラスチックを累積25%排出抑制すること、リユース・リサイクルに関しては2030年までに容器包装の6割をリユース・リサイクルにすることを示している。

この戦略を実行することにより、世界全体の資源・環境問題の解決のみならず、経済成長や雇用創出に貢献し、ひいては持続可能な発展に貢献することができるとしている。


店舗



レモンスカッシュ



（会社HPより抜粋）


Plastics  
Smart

# プラスチック資源循環戦略（概要）

令和元年5月31日

## 背景

- ◆廃プラスチック有効利用率の低さ、海洋プラスチック等による環境汚染が世界的課題
- ◆我が国は国内で適正処理・3Rを率先し、国際貢献も実施。一方、世界で2番目の1人当たりの容器包装廃棄物、アジア各国での輸入規制等の課題

## 重点戦略

### 基本原則：「3R+Renewable」

### 【マイルストーン】

リデュース等	▶ワンウェイプラスチックの使用削減(レジ袋有料化義務化等の「価値づけ」) ▶石油由来プラスチック代替品開発・利用の促進
リサイクル	▶プラスチック資源の分かりやすく効果的な分別回収・リサイクル ▶漁具等の陸域回収徹底 ▶連携協働と全体最適化による費用最小化・資源有効利用率の最大化 ▶アジア禁輸措置を受けた国内資源循環体制の構築 ▶イノベーション促進型の公正・最適なリサイクルシステム
再生材 バイオプラ	▶利用ポテンシャル向上（技術革新・インフラ整備支援） ▶需要喚起策（政府率先調達（グリーン購入）、利用インセンティブ措置等） ▶循環利用のための化学物質含有情報の取扱い ▶可燃ごみ指定袋などへのバイオマスプラスチック使用 ▶バイオプラ導入ロードマップ・静脈システム管理との一体導入

#### <リデュース>

①2030年までにワンウェイプラスチックを累積25%排出抑制

#### <リユース・リサイクル>

②2025年までにリユース・リサイクル可能なデザインに

③2030年までに容器包装の6割をリユース・リサイクル

④2035年までに使用済プラスチックを100%リユース・リサイクル等により、有効利用

#### <再生利用・バイオマスプラスチック>

⑤2030年までに再生利用を増加

⑥2030年までにバイオマスプラスチックを約200万トン導入

海洋プラスチック対策	▶プラスチックごみの流出による海洋汚染が生じないこと（海洋プラスチックゼロエミッション）を目指した ▶ポイ捨て・不法投棄撲滅・適正処理 ▶マイクログラスチック流出抑制対策(2020年までにスクラップ製品のマイクログラスチック削減徹底等) ▶代替イノベーションの推進 ▶海岸漂着物等の回収処理 ▶海洋ごみ実態把握(モニタリング手法の高度化)
国際展開	▶途上国における実効性のある対策支援（我が国のソフト・ハードインフラ、技術等をオーダーメイドパッケージ輸出で国際協力・ビジネス展開） ▶地球規模のモニタリング・研究ネットワークの構築（海洋プラスチック分布、生態影響等の研究、モニタリング手法の標準化等）
基盤整備	▶社会システム確立（ソフト・ハードのリサイクルインフラ整備・サプライチェーン構築） ▶技術開発（再生可能資源による代替品、革新的リサイクル技術、消費者のライフスタイルのイノベーション） ▶調査研究（マイクログラスチックの使用実態、影響、流出状況、流出抑制対策） ▶連携協働（各主体が一つの旗印の下取組を進める「プラスチック・スマート」の展開）
	▶資源循環関連産業の振興 ▶情報基盤（ESG投資、エシカル消費） ▶海外展開基盤

- ◆アジア太平洋地域をはじめ世界全体の資源・環境問題の解決のみならず、経済成長や雇用創出⇒持続可能な発展に貢献
- ◆国民各界各層との連携協働を通じて、マイルストーンの達成を目指すことで、必要な投資やイノベーション（技術・消費者のライフスタイル）を促進

（環境省 HPより抜粋）

本戦略の策定後、飲食業界において、脱プラスチックに関する取組が加速しており、借入人にとっても喫緊の対応を迫られている。このようなプラスチック資源循環に関する世界的な取組から鑑みて、本KPIはワンウェイプラスチックの削減や容器包装のリユース・リサイクルを促進するものであり、有意義であるといえる。

また、国立公園において先行して脱炭素に取り組むエリアを「ゼロカーボンパーク」※2として環境省が登録する制度がある。この制度への登録条件としては脱炭素化の取組だけでなく、プラスチックごみの削減など、サステナブルな観光地づくりに資する取組があることが求められており、2023年4月には瀬戸内海国立公園である宮島がゼロカーボンパークの登録を受けた。ゼロカーボンに向けては、宮島の訪問税の推進などの持続可能な観光の推進に加えて、脱プラスチックの推進に取り組むこととしており、借入人の取組はこの項目に当てはまるといえる。

さらに、廿日市市が掲げる「千年先も、いつくしむ。」プロジェクト※3においては、持続可能な観光地域としてのまちづくりを推進しており、借入人の取組もこのプロジェクトの趣旨に合致したものである。

こういったことから、借入人が定めるKPIは単なる廃プラスチック削減だけでなく、廿日市市が取り組む課題にも貢献するため、重要性は高いと判断する。

（※2）ゼロカーボンパークとは、国立公園における電気自動車等の活用、国立公園に立地する利用施設における再生可能エネルギーの活用、地産地消等の取組を進めることで、国立公園の脱炭素化を目指すとともに、脱プラスチックも含めてサステナブルな観光地づくりを実現するエリア。国立公園をカーボンニュートラルのショーケースとし、訪れる国内外の人たちに脱炭素型の持続可能なライフスタイルを体験して頂く場作りを目指す。（環境省HPより）

（※3）「千年先も、いつくしむ。」プロジェクトとは、2023年4月に廿日市市が「宮島まちづくり基本構想」を道標として、宮島に関わるすべての人と行政が一体となって、宮島を守り伝え、発信することで新たな活力を生み出し、「住んでよし、訪れてよし」の持続可能な観光地域をめざした取組の総称として命名したもの。

### 3. サステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット（SPT）の測定

本ローンのSPT設定については、以下の（１）から（３）の観点より適切な内容で設定されており、サステナビリティ・リンク・ローン原則に適合していると評価する。

#### （１）SPTの概要

借入人はKPIとなる「リユースカップ利用率の増加」について、下表のとおりSPTを設定した。

##### 【借入人のSPT】

	1年目 (2025年 6月期)	2年目 (2026年 6月期)	3年目 (2027年 6月期)	4年目 (2028年 6月期)	5年目 (2029年 6月期)	6年目 (2030年 6月期)
リユースカップ 利用率	1%	3%	5%	10%	20%	30%

#### （２）SPTの野心性

借入人は、現在ワンウェイプラスチックを利用しており、今般リユースカップを導入することを決定した。そのため、リユースカップの製作や、各店舗での回収の仕組み構築、顧客へのリユースカップ利用の啓発に時間を要すると想定し、1年目～3年目のKPIは低水準となっている。

環境省が定めるマイルストーンでは2030年までに容器包装の60%のリユース・リサイクルを目指しているものの、店舗では、一日最大で3,000杯程度のドリンク販売をしていることから6年目の30%でも影響力は高く、十分野心的と判断される。

#### （３）SPTの適切性

SPTの適切性については、第三者機関であるひろぎんエリアデザインからセカンドオピニオンを取得している。

## 4. ローンの特徴

評価対象の「ローン特性」は、以下の観点からサステナビリティ・リンク・ローン原則に適合しているといえる。

貸出期間中に適用される金利は、以下の要件の達成状況によって決定される。

- (1) 借入人は貸付人に取組についての進捗状況を書面にて報告すること。
- (2) SPTの目標数値を達成すること。

(1) が遵守されている場合、(2) が未達でも、スプレッドは変わらない。(1) が遵守され(2) が達成される場合、スプレッドは縮小されるように設計されている。よって、貸出条件とSPTは連動しているといえる。

## 5. レポートینگ

評価対象の「レポートینگ」は、以下の観点からサステナビリティ・リンク・ローン原則に適合しているといえる。

### (1) 貸付人への報告

借入人は、SPTの達成状況を書面にて貸付人に提出する予定である。これにより貸付人はSPTの達成状況に関する最新の情報を入手できる。

### (2) 一般開示

借入人は、今回の資金調達がサステナビリティ・リンク・ローンに基づくものであることを、貸付人のウェブサイトで表明することを企図している。SPTに関する情報を一般に開示することにより、透明性を確保する。

## 6. 検証

評価対象の「検証」は、以下の観点からサステナビリティ・リンク・ローン原則に適合しているといえる。

借入人はサステナビリティ・リンク・ローンのフレームワークに関して、前述の「1. 借入人とサステナビリティ」、「2. KPIの選定」、「3. サステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット (SPT) の設定」、「4. ローンの特徴」、「5. レポートینگ」に関して、自らの対応について客観的な評価が必要と判断し、ひろぎんエリアデザインによるレビュー及びSPTとして設定する指標の検証を依頼した。

当該依頼を受け、ひろぎんエリアデザインは、評価対象のサステナビリティ・リンク・ローン原則への適合性について確認の上、セカンドオピニオンを作成した。貸付人も、ひろぎんエリアデザインがセカンドオピニオンを作成することを承諾している。ひろぎんエリアデザインのセカンドオピニオンは貸付人に提供される。

## ひろぎんエリアデザイン 会社概要

社名 ひろぎんエリアデザイン株式会社

代表者 代表取締役社長 松内 紀子

所在地 〒730-0031  
広島県広島市中区紙屋町1丁目3-8

設立 2021年4月1日

資本金 1億円

株主 株式会社ひろぎんホールディングス

TEL 082-504-3016

## 留意事項

### 1. ひろぎんエリアデザインの第三者意見について

本文書については、貸付人が借入人に対して実施するサステナビリティ・リンク・ローンについて、ローン・マーケット・アソシエーション (LMA)等の「サステナビリティ・リンク・ローン原則」及び環境省の「グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン」への適合性、準拠性、設定する目標の合理性に対する第三者意見を述べたものです。

その内容は、入手可能な公開情報、借入人から提供された情報や借入人へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況を評価したものであり、当該情報の正確性、実現可能性、将来における状況への評価を保証するものではありません。

ひろぎんエリアデザインは、当文書のあらゆる使用から生じる直接的・間接的損失や派生的損害については、一切責任を負いません。

### 2. 貸付人との関係性、独立性

ひろぎんエリアデザインは、ひろぎんグループに属しており、貸付人及びひろぎんグループ企業との間、及びひろぎんグループのお客さま相互の間における利益相反のおそれのある取引等に関して、法令等に従い、お客さまの利益が不当に害されることのないように、適切に業務を遂行いたします。

また、本文書にかかる調査、分析、コンサルティング業務は、貸付人とは独立して行われるものであり、貸付人からの融資に関する助言を構成するものでも、資金調達を保証するものでもありません。

### 3. ひろぎんエリアデザインの第三者性

借入人とひろぎんエリアデザインとの間に利益相反が生じるような、資本関係、人的関係等の特別な利害関係はございません。

### 4. 本文書の著作権

本文書に関する一切の権利は、ひろぎんエリアデザインが保有しています。本文書の全部または一部を、自己使用の目的を超えて、複製、改変、翻訳、頒布等を行うことは禁止されています。